

## 2 令和8年度 研究主題

**研究主題** 児童が主体的に道徳性を養う道徳科の指導

**副主題** ～道徳科の特質を踏まえた指導の工夫～

地球上で暮らす私たち人間にとって持続可能な社会を実現するためには、急速に進化・発展し続ける生成AIをはじめとするデジタル技術を使いこなす能力などが必要になるとともに、気候変動など地球規模での課題への対策として脱炭素に向けた取組を加速するなど、世界全体で産業構造の転換が求められている。しかし、現在の社会は、変動・不確実・複雑・曖昧の頭文字をとって「VUCA（ブーカ）の時代」と呼ばれ、これまでの常識が通用しにくいとも言われている。このような社会状況の中で、次代を担う児童には、夢や希望をもち、主体的に考え、多様な他者と協働して、よりよい社会を創造するための能力を育成することがますます重要となっている。

令和7年9月25日の中央教育審議会の教育課程特別部会の論点整理によれば、次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方として、以下の3点が示された。

- 1 主体的・対話的で深い学びの実装
- 2 多様性の包摂
- 3 実現可能性の確保

これらは、多様な子供たちの「深い学び」を確かなものにするための考え方として、三位一体での具現化を目指すものとして検討されている。現行の学習指導要領に引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すものであるが、その実現を通じて、「自らの人生を舵取りする力」と「民主的で持続可能な社会の創り手」を育成する方向で検討されている。また、各教科等では、道徳科において、考え、議論する道徳の徹底も謳われている。現行学習指導要領による教科化を経て、どの学校でも道徳授業の量的な改善が図られたが、質的な向上にはいまだ課題がある。道徳教育の充実、特に道徳科の授業改善に大きな期待が寄せられている。

このような状況の中、令和7年度、本研究会においては、研究主題を「児童が主体的に道徳性を養う道徳科の指導」、副主題を「道徳科の特質を踏まえた道徳科指導の工夫」と設定し、研究を進めてきた。今後は、各部がより一層連携し、相互に調査・研究を生かして研究を深めることが課題である。そこで、令和8年度も研究主題・副主題を継続し、児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることのできるよう指導方法を創意・工夫し、道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え理解し、主体的に取り組むことができる道徳授業の創造を目指すこととした。

令和8年度も都小道研の調査部、研究部、研修部、実践部の各部がますます連携を深めながら組織的な研究に取り組むとともに、総務部、庶務部、渉外部、広報部の各部が研究を支援しながら、研究成果を都内各校へと広く浸透させ、東京都の道徳教育の充実を図っていく。

《参考》 ・「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」平成29年3月 文部科学省

・「教育課程企画特別部会 論点整理」令和7年9月25日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会